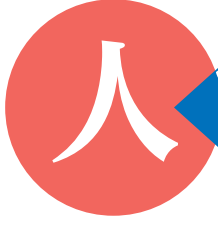



第10回

横浜   まち

デザイン賞 2022 

受賞活動・受賞景観集



地域まちづくり部門

自ら主体となって創意工夫し、
地域まちづくりを推進している活動



まちなみ景観部門

地域の個性と魅力をつくりだしている
まちなみや建造物等



横浜・人・まち・デザイン賞について

表彰目的

横浜市内での地域まちづくりに関して特に著しい功績のあった活動や、都市景観の創造や保全に寄与したまちなみを構成する建造物等を顕彰して、魅力あるまちづくりをより広く進めていくことを目的としています。

選考基準

地域まちづくり部門

横浜市内における、おおむね3年以上の取組実績がある地域まちづくり活動の主体である団体を対象としています。また、表彰対象の活動を支援した個人または団体も表彰します。

- 1) 公共性(地域社会への貢献)が評価されるもの
- 2) 積極性が評価されるもの
- 3) 地域住民等の幅広い参加や他団体との連携が評価されるもの
- 4) 今後の活動の継続性・発展性が評価されるもの
- 5) 創意工夫が評価されるもの

まちなみ景観部門

横浜市内の「まちなみ」や「建造物等」で、おおむね10年以内に新しく造られたものや、歴史的建造物等再生されたものを対象としています。

- 1) 地域の個性と魅力にあふれた新しい都市景観の創造に寄与しているもの
- 2) まちの活性化に寄与し、賑わいのある都市景観を形成しているもの
- 3) 歴史的なまちなみ、及び自然景観の保全に寄与し、又はそれらと調和を保っているもの
- 4) 横浜らしさの演出に寄与しているもの
- 5) 都市景観と環境や福祉への配慮などの先進的な取組が調和しているもの

今回の応募状況

- || **募集方法** 応募フォームまたは市役所、区役所、行政サービスコーナー等で配布しているリーフレットの応募はがき
- || **応募状況** **地域まちづくり部門**：応募総数 23通 対象案件数 19件
まちなみ景観部門：応募総数 90通 対象案件数 79件

募集及び選考の流れについて

地域まちづくり部門

募集	令和3年5月1日～6月30日
一次選考(書類)	令和3年9月～10月
活動調査等	令和3年11月～12月
二次選考	令和3年12月21日

まちなみ景観部門

募集	令和3年5月1日～6月30日
応募案件調査等	令和3年7月～11月
選考委員による現地調査	令和3年12月8日
選考	令和3年12月21日

活動の主体となる団体と、その取組を支援した個人または団体を表彰します

表彰式

令和4年5月(予定)

景観づくりに貢献した事業者、設計者、施工者などを表彰します

選考委員一覧

地域まちづくり部門

横浜市地域まちづくり推進委員会 表彰部会

室田 昌子	東京都市大学環境学部 教授
田邊 寛子	まちひとこと総合計画室 代表
大野 玲子	市民委員
片岡 公一	株式会社山手総合計画研究所 代表取締役
齋藤 保	株式会社イータウン 代表取締役

まちなみ景観部門

横浜市都市美対策審議会 表彰広報部会

関 和明	関東学院大学名誉教授(建築史)
大西 晴之	横浜商工会議所
真田 純子	東京工業大学環境・社会理工学院准教授(景観)
鈴木 智恵子	公益財団法人日本文藝家協会会員
高村 典子	市民委員

ごあいさつ

横浜は、多くの企業が集積する都心部から、自然豊かな郊外部まで、多彩な魅力と大きな活力にあふれています。その源となっているのは、横浜を愛する市民の皆様様の様々な活動です。このたび「横浜・人・まち・デザイン賞」を表彰させていただいた皆様様の「地域まちづくり」活動や、魅力ある「まちなみ景観」づくりは、横浜らしい街の魅力を一層高め、横浜の街にお住まいの方、訪れる方、働く方を強く惹きつけています。

長引くコロナ禍において、市民の皆様様の命と暮らしをお守りし、横浜の活力と賑わい、そして力強い横浜経済を取り戻していく。その決意で、横浜を支えてくださっている多くの皆様と御一緒に、力を尽くしてまいります。

むすびに、このたび受賞された皆様様の活動のますますの御発展を、心より祈念いたします。



横浜市長 山中竹春

第10回 横浜・人・まち・デザイン賞の選考にあたって

Ⅱ 地域まちづくり部門

横浜市地域まちづくり推進委員会
表彰部会長

室田 昌子

第10回横浜・人・まち・デザイン賞の地域まちづくり部門は、総数23通の応募をいただきました。新型コロナにより市民活動が実施しにくい状況もあるなかで、多くの団体から応募をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

選考にあたりましては、応募いただいた書類をもとに一次選考を行い、事務局で各団体へのヒアリングを実施し、その情報を加えて二次選考を行いました。

一次選考では、公共性、積極性、幅広い参加や他団体との連携、活動の継続性や発展性、創意工夫の基準を念頭に、審査委員が個別に審査をし、二次選考では、審査委員全員で一つ一つの活動について情報共有や意見交換、さらに投票を行って6団体を受賞候補としました。

応募された活動はテーマも多彩で素晴らしい活動ばかりであり、そのなかで6団体に絞るのは実に難しいことでした。今回選定された団体は、いずれも子どもや高齢者、地域住民に対して、安心や豊かさをもたらす、あるいは子どもの主体性を育む活動であり、地域資源を活用しつつ課題を解決するような工夫が多くみられました。多様なタイプの団体と協力し互いの優れた点を引き出す努力をされ、長年の継続と、さらにコロナ禍でもできることを模索され多様な工夫をされていました。

横浜の素晴らしい市民活動が、横浜の魅力と強さを創っている、そんなことを実感させてくれます。本賞をきっかけに、このような活動がさらに広く発展していくことを強く願っております。

Ⅱ まちなみ景観部門

横浜市都市美対策審議会
表彰広報部会長

関 和明

1年延期して実施された第10回横浜・人・まち・デザイン賞。今回、まちなみ景観部門には90通の応募（総数）があり、重複を除くと79件、市内の14区から応募があり、ウェブサイトからの応募がほとんどでした。この賞に多くの方が関心をもたれ、たくさんの推薦があること自体が横浜の景観を魅力的にする力の源泉だと思いますので、応募された方々にまず感謝します。

選考のプロセスは次のとおりです。まず、事務局が応募案件について現地確認を行った上で調査個票を作成し、その個票に基づいて選考委員による現地調査を実施する案件16件を選んで昨年12月に現地調査を行いました。その後、現地調査の有無に関わらず、すべての案件の中から各委員の推薦があった18件について選考を行い、最終的に7件を表彰の対象に決定しました。

保存された古民家を中心にした和風庭園、商店街の空き店舗を活用した地域のコモンスペース、みなとみらい地区に建つ特徴的なフォルムの高層ホテル、新市役所へアクセスする人道橋と低層部の水辺空間、商店街を活性化する多機能なストリート・ファニチャー、屋上を段状の公園的な広場に商業施設、そして港を象徴するカラーリングを施したハイブリッド連節バス。

以上のとおり、今回もさまざまな性格の場所や施設が選ばれましたが、横浜のまちなみ景観が市民の生活をより豊かにし、社会の変化や地域の多様性に応じながら、より心地よく美しいものとして受け継がれ、創り出されていくことは、選考を担当した委員全員の願いであると同時に、市民のみなさんの願いでもあると思います。

第10回 横浜・人・まち・デザイン賞 表彰対象一覧

地域まちづくり部門

- ① みんなでつくるコミュニティ農園「ミノガーデン」
- ② 地域の多職種連携による見守りネットワーク事業
- ③ お年寄りにやさしい街 六角橋 ～オレンジプロジェクト～
- ④ 美しが丘100段階プロジェクト
- ⑤ 地域で子どもを育てる～子どもの体験活動と大人の学び支援～
- ⑥ こどもたちの手で大人と一緒に住み続けられるまちづくり

まちなみ景観部門

- ① 馬場花木園と旧藤本家住宅
- ② 藤棚デパートメント
- ③ 横浜ベイコート倶楽部 ホテル&スパリゾート/ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜
- ④ 横浜市役所の水辺テラスとさくらみらい橋
- ⑤ 元町パークレット
- ⑥ UNIQLO PARK 横浜ベイサイド店
- ⑦ YOKOHAMA BAYSIDE BLUE



みんなでつくるコミュニティ農園 「ミソノガーデン」

活動概要

東日本大震災をきっかけとして、地域コミュニティと自然エネルギーをテーマに、未来の子もたちに豊かな環境を引き継ぎたいと考え活動を始めました。

参加者と主催者が共に楽しめるよう、「エコストープde朝ごはん会（電気・ガスを使わない食事会）」の開催や、グリーン電力による野外幻燈会などを企画することで、楽しく参加型のイベントになるよう工夫をしています。コロナ禍ではイベント等ができない中、「ミソノガーデン」での農作業を通じた活動は屋外であるため、「土に触れたい」という近隣の子もから高齢者まで多くの参加があります。その結果、安全な食べ物や環境について考え、家庭の野菜くずを堆肥にすることでごみを減らすことにもつながりました。また、2020（令和2）年末から始めた養蜂を通じ、人と生き物の共存についても考える機会となっています。

「ミソノガーデン」での活動を通じて、地域のコミュニケーションや自然環境の大切さを考えることがまちに広がっています。

表彰理由

活動テーマは「環境」や「循環型社会」という社会的にも重要性が高く壮大だが、取組は身近で誰もが参加でき、「自分事」として当事者意識を持ちやすい。畑を耕して味わう「食」や、エコストープによる「自然エネルギー」などの体験を通して、どんな人にも分かりやすく活動内容が工夫されている。また、農作業を通じて人々や地域のつながりづくりを実践しており、この場所では参加者たちがお互いを否定しないというルールを持つなど、他者を尊重する姿勢が活動の根底にある。そのため活動は明るく楽しいものとなり、またそこに世代を超えて多様な人が集うという好循環が生まれ、持続的な活動につながっている。（大野委員）



▲芋掘りの様子



▲エコストープやソーラークッカーでの料理

◆活動団体 熊野の森もろおかスタイル

◆活動を支援した個人または団体 内海 宏（まちづくりコーディネーター）
吉田 博史（元・師岡地区連合町内会会長）

||活動場所 鶴見区獅子ヶ谷及び港区師岡町

||活動団体 ホームページ <https://www.facebook.com/KUMANOmoMORI/>

地域の多職種連携による 見守りネットワーク事業

活動概要

地域見守りネットワーク「ケアサークルみま～もすえよし」は、鶴見区末吉地区及び周辺の医療・福祉分野の専門職と民間企業が手をつなぎ、安心していつまでも元気で暮らし続けられるまちづくりを目指しています。

地域ではこれまで、高齢者の孤立や認知症の徘徊などに直面することが多くありました。そこで日頃から顔見知りになることで異変に気づき、困った時に声を掛け合えるような見守りネットワークの仕組みを模索、「登録者カード」と健康・生活セミナー開催を組み合わせた活動をスタートさせました。

活動を始めて10年以上経ち、道ですれ違えば挨拶をして様子の変化に気づけるようなつながりの輪が広がっています。高齢者に限らず、地域とつながることが難しい方も安心して生活できるよう活動を進めています。

表彰理由

高齢者の見守りやケアは福祉専門職や支援機関だけでは対応しきれない地域課題となっている。ケアサークルみま～もすえよしは10年以上にわたって勉強会などの学び合い活動を通じて地域連携を模索し活動を根気よく継続。さらには大田区で実践している「みま～も」の取組を、この地域に合ったスタイルで取り入れ、専門機関のみならず、地元のタクシー会社や印刷会社など多種多様な団体や事業者と連携を行い、それぞれの強みやノウハウを生かした事業に成長していることは高く評価できる。こうした取組はさらなる活動の深まりや拡がりも期待できる上、他の地域でもそのノウハウが生かされて地域ぐるみの福祉活動となる可能性をもっている。（齋藤委員）



▲町内会イベントで「健康相談コーナー」を開催



▲鶴見区大南衛生科と「お口の健康セミナー」を開催

◆活動団体 ケアサークルみま～もすえよし

◆活動を支援した個人または団体 法人 下末吉連合会（連合町内会）

||活動場所 鶴見区下末吉を中心とした周辺地域

||活動団体 ホームページ <https://sueyoshi-mimamo.jimdoofree.com/>
<https://www.facebook.com/pg/mimamo.sueyoshi/posts>

お年寄りにやさしい街 六角橋 ～オレンジプロジェクト～

活動概要

「地域に住んでいる方のためになるような、地域課題に取り組むボランティア活動をしたい!」という大学生の声から、少子高齢化の問題に着目し、様々な団体と協力しながら「認知症や高齢者にやさしいまちづくり」を進める認知症の啓発活動を実施しています。

- ・大学生や若い世代にも「認知症」について知って欲しい。
- ・地域全体として「お年寄りにやさしい街」を創る、または創るきっかけを提案する。
- ・「認知症サポーター」など啓発活動が無くとも誰もが『当たり前』に共生できる社会を目指す。

これらを目標に、学生と地元商店街が中心となりランチョンマットを使った認知症の周知など多彩なアイデアで「地域の多様な団体と協働した『まちづくり』を進めるきっかけ」を生み出す工夫をしています。今後もこれまで紡いできたつながりを生かし「コロナ禍でも『今』出来ることを諦めない」を合言葉に活動を継続しています。

表彰理由

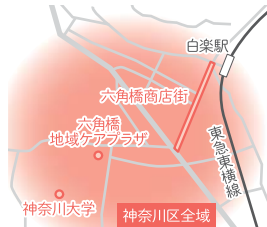
大学生の個人的な問題意識をきっかけに、六角橋自治連合会・商店街連合会、地域交流活動委員会、ケアプラザ、区社協、地元事業者、そして医師会、神奈川大学など多様な関係者の連携が段階的に拡大を見せており、地域活動として根付き始めています。

認知症は、周囲の理解と行動により、認知症患者自身も関係者も安心して暮らせるようになります。

本プロジェクトは、高齢になっても誇りと尊厳、やりがいと生きがいを持ちつつ、生き続けられる地域づくりのモデル的な活動であり、横浜市全域に広がっていく可能性を秘めています。(田邊委員)



▲学生・地元商店街など多様な団体が協力したオレンジプロジェクト



▲「お年寄りにやさしい街」六角橋商店街

◆活動団体 オレンジプロジェクト実行委員会

◆活動を支援した個人または団体 神奈川大学、神奈川大学ボランティア部、GLOBAL★YEN★LEAP、神奈川区医師会、神奈川区歯科医師会、神奈川区薬剤師会

||活動場所 六角橋地区を中心とした神奈川区全域

||活動団体ホームページ <https://orange-project.jimdofree.com/>

美しが丘100段階プロジェクト

活動概要

美しが丘の地域資産である遊歩道を通じて、住民や子どもたちの地域への愛着の醸成と若い世代の地域活動参加を目指し、連綿と続いてきた美しが丘のまちづくりスピリットを次世代につないでいくために活動を始めました。

幅広い世代の参加を目指すため、デジタル情報の発信だけでなく、紙媒体での印刷物の製作にも注力した「たまブラ遺産MAP」は、コロナ禍で遊歩道を散歩やランニングに利用する人々にも利用されています。

また、ヨコハマ市民まち普請事業で整備した「100段階」は、カラーリングされたことで階段を歩くことが楽しくなった、夜も明るくなり防犯面も安心と好評を得ています。毎年3月の卒業式の朝には、階段上にある小学校の卒業生を祝うフラワーポットが並ぶ「花の100段階」に姿を変えます。

コロナ禍により、まちは寝に帰る場所から生活する場所へと変化し、居住地域について考える人も増えてきた中、コミュニティづくりのあるべき姿を模索する努力を続け活動しています。

表彰理由

まち普請事業で整備した100段階をきっかけとして、ワクワクしてくるようなアイデアをいくつも企画し、実行していることに心を打たれました。

これからの地域のコミュニティの持続のためには、全世代が「楽しみながら」参画できることが必要不可欠だと思います。そのためには、アナログもデジタルも、個人も企業も、そして地域内のパワーだけではなく地域外のパワーも地域に引き込んでいく必要があると思います。本活動が、とても良いバランスでそれらに取り組み、地域に浸透していると感じました。地域活動の先輩方へのリスペクトを持ちながら、新しいことに取り組む姿は、これからの地域活動の目指すべき姿の一つが見えるような気がします。(片岡委員)



▲カラーリングワークショップ



▲サクラ咲く100段階

◆活動団体 美しが丘中部自治会アセス委員会 遊歩道ワーキンググループ

◆活動を支援した個人または団体 合同会社たまブラ・コネクト、横浜美しが丘四郵便局、一般社団法人 田園都市建築家の会

||活動場所 青葉区美しが丘1～3丁目

||活動団体ホームページ <https://100dan-kaidan.org>

地域で子どもを育てる ～子どもの体験活動と大人の学び支援～

活動概要

学校支援ボランティアコーディネーター養成講座を受講した様々な立場の人が集まり、教員や困っている子どもへのサポート、地域での体験活動、世代間交流の機会等をつくり、子どもも大人も成長するまちづくりを始めました。

青少年をはじめとする全ての市民に対して、学校や地域で多様な学びの機会をつくり、自己肯定感を持って自分らしく生きることができるよう取組を進めています。

主催者も含め、年齢を問わず誰もがワクワクする活動をモットーにしているため、異世代でおばけやしきをつくる、段ボール箱でまちをつくり防災キャンプをするなど、楽しいイベントを企画することが、まちづくりや子どもたちの成長につながる仕掛けとなります。各活動に参加した子どもたちが、立場を変えながら下級生の面倒をみるようになり、ボランティアとして指導する側に加わる流れができ、各世代が成長できる機会として継続しています。

表彰理由

子どもたちは、家庭・学校・社会・地域などの様々な環境に包まれて成長していくと思いますが、特に学校と地域人材の情報をつなぐ地域コーディネーターの役割は大変であると、日々認識しています。本団体の活動は、「地域で育つ子どもたちの成長の姿」を地域資源としてとらえ、自らが楽しみながら仲間を増やしていく姿が見て取れ、持続可能であると感じます。また、講座で学び、そこで出会った、同じ「興味・思考」を持つ仲間と活動を始め発展させるという、「知的好奇心が結ぶ縁」がまちづくりの担い手へ発展しており、「縁」づくりの重要性とつくり方のヒントにもなる展開であると高く評価します。(田邊委員)



▲青葉おばけやしきプロジェクト



▲チャレンジキャンプ

◆活動団体 NPO法人あおば学校支援ネットワーク

||活動場所 青葉区全域

||活動団体 ホームページ <http://www.aobaschoolsupport.net/>
<https://m.facebook.com/pages/category/Education/あおば学校支援ネットワーク-348915031950684/>

こどもたちの手で大人と一緒に 住み続けられるまちづくり

活動概要

こどもの力をもっとまちづくりに生かすことで地域社会が豊かになり、こどもたちの自己肯定感の醸成にもつながる。「まちはそこに暮らす人、かかわる人たちで創り上げていく」という理念を元に、「まちづくり」を通して大人もこどもも楽しみながら学んでいくことを目指しています。

「こどもが主体」を実現するため、そのこどもたちがお客様ではなく大人と対等な立場で活動できるよう、大人への丁寧な事前説明を行う。メンバーとして活動するこどもたちにも研修を行う。司会進行やプレゼンなどもこどもたちに積極的にチャレンジしてもらうなど。こどもたちがひとりの人として主体的に参加できるよう、こども・大人の双方向に注意を払って活動しています。

「こどもが多様な大人と関わることで豊かな学びにつながる。」こども記者の取材により、地域の魅力を伝えることで、大人もまちに関心を深めるなど、こどもたちの社会参画の場をこれからも守り続けています。

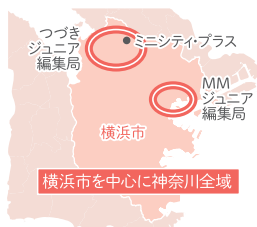
表彰理由

ミニシティ・プラスは、こどもの力を信じ「こどもが主体」ということが徹底されています。1人の人間としてこどもが大人・地域と関わるという経験を、こども主体で創り出すというのは、素晴らしい価値をもつ活動だと思います。

多くの人や組織との関係を築き、常に新しいことに取り組みながら活動を発展させる熱意とアイデア、そして、それらを実現する実行力は、どんな活動においても必要とされることですが、同時にとても難しいことでもあります。その難しいことに常にチャレンジし、長年にわたって活動を展開してきたことに敬意を表したいと思います。コロナ禍でのこどもたちの活動は、大変な面はあると思いますが、さらなる展開を期待しています。(片岡委員)



▲ミニシティ2018こども市長選挙



▲ジュニア記者による取材の様子

◆活動団体 認定NPO法人ミニシティ・プラス

◆活動を支援した個人または団体 東京都大学メディア情報学部
中村雅子研究室
YAP(横浜アクションプランナー)
神奈川大学経営学部

||活動場所 横浜を中心に神奈川全域

||活動団体 ホームページ <https://minicity-plus.jp/>

馬場花木園と旧藤本家住宅

概要

1999(平成11)年に開園した馬場花木園は、2018(平成30)年から園内の拡張整備を実施し、2020(令和元)年11月より新たに「旧藤本家住宅主屋及び東屋」を含むエリアを公開しました。旧藤本家住宅は江戸末期から明治初期に建築された貴重な遺構で、拡張整備前の2017(平成29)年に「横浜市魅力ある都市景観の創造に関する条例」に基づく特定景観形成歴史的建造物に指定されました。この制度の活用により、主屋と東屋の茅葺き屋根の保存や、建造物内部の積極的な利活用を図っています。

所在地

鶴見区馬場

講評

鶴見区馬場の丘に囲まれた谷戸にある馬場花木園は地域の隠れた名園である。起伏ある地形を生かし、周辺住宅地に溶け込むようにデザインされた和風庭園。菖蒲田や池が整備され、四季折々、様々な花木が美しく咲き移ろう市民の憩いの場として来園者を魅了している。郷愁を誘う茅葺きの旧藤本家住宅は農家の屋敷として近年まで住み継がれ、風致公園と共に歴史的景観を形成している。囲炉裏のある古民家は谷戸田が広がっていたかつての農家の姿と暮らしを彷彿とさせ、この地域の懐かしい原風景を見るかのような。住宅内の展示は、藤本家住宅の変遷、馬場地域の農村の暮らし・歴史・文化を今に伝えている。(鈴木委員)



- 事業者: 横浜市
- 調査・設計・工事監理: 株式会社建文
- 造園設計: 株式会社景デザイン研究所
- 建築工事: 馬淵建設株式会社
- 造園工事: 小島造園株式会社、藤造園建設株式会社、株式会社田澤園

藤棚デパートメント

概要

藤棚デパートメントは、藤棚商店街の活性化を図るために、空き店舗を活用して2018(平成30)年にオープンした「シェアキッチン+設計事務所+本屋」で構成される地域活動拠点です。シェアキッチン以外にも、映画上映会や地域の方々が参加できる古本市、クリスマスマーケットなどのイベントの実施や、チャレンジショップとして店舗営業できる仕組みづくりなど、藤棚商店街の賑わいづくりに積極的に取り組んでいます。

所在地

西区中央

講評

藤棚一番街の真ん中にある「藤棚デパートメント」は、黄色とグレーの大きなれんが目を引くシェアキッチン+設計事務所+セレクト書店のコミュニティスペースである。通りに面したガラスに描かれた今月のカレンダーは、日替わりカフェやワークショップなどの思い思いの予定で埋まる。

さまざまな人が集い合うこの場所も、かつては空き店舗だった。地域の拠点などが点在し、商店街もある野毛山エリアはもっと面白くなるはずという設計者の思いが、昔ながらの商店街に一石を投じた。その波紋が広がって、今ではあちこちに新たなまちの使い手を呼びこんでいる。(高村委員)



- 事業・設計者: YONG architecture studio
- 施工者: 株式会社ルーヴィス

横浜ベイコート倶楽部 ホテル&スパリゾート／ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜

概要

「みなとみらい21中央地区20街区MICE施設整備事業」のうちの1つとして、2020(令和2)年9月に完全会員制のホテル「横浜ベイコート倶楽部 ホテル&スパリゾート」と、ハワイ発祥のブランドホテル「ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜」が新たにみなとみらいの地に開業しました。街区内には、同年4月に開業した「横浜みなとみらい国際コンベンションセンター(通称:パシフィコ横浜ノース)」が位置しており、来街者の観光目的での利用や周辺のMICE施設利用者の宿泊など、様々なニーズに対応した施設となっています。

所在地

西区みなとみらい

講評

みなとみらい21事業の開発が最終段階の今、「港ヨコハマ」のイメージを表した「汀(みぎわ)」(寄せては返す波打ち際)の外観を持つ本施設が竣工した。そのプロポーション、カラーは横浜の個性に適したものであり、この独創的外観デザインを内部造作にも活用している。印象的なインテリアをもって、ロビー、バー、レストラン、客室等にインパクトを与えており、来館者は「さすが横浜らしい」と感じているのではないだろうか。因みに外観のR角度は同エリア内にある「インターコンチネンタルホテル」の外観に呼応させたものとのことで、細かい配慮が感じられる。(大西委員)



- 事業者: リゾートトラスト株式会社
- 基本構想: 株式会社竹中工務店
- 設計・監理者: 株式会社観光企画設計社
- 施工者: 鹿島建設株式会社

横浜市役所の水辺テラスとさくらみらい橋

概要

2020(令和2)年6月、横浜市役所の新市庁舎整備の一環として大岡川沿いに広がる水辺テラスが整備されました。また、ほぼ同時期に、桜木町駅から北仲通り地区への歩行者動線の容量確保や利便性の向上などを目的に整備されたさくらみらい橋が開通しています。大岡川を挟んだ東西の両エリアをつなぐ空間として多くの人々が行き交い、また晴れの日には市民や来街者がテラスに集う憩いのスペースとなっており、この地区の新たな景観を創出しています。

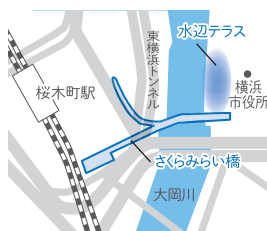
所在地

中区桜木町～本町

講評

さくらみらい橋と横浜市役所足元のテラスは、それらが合わさって新しい横浜の魅力を生み出している。橋から川やテラスの風景を眺めることが可能で、単につなぐという役割を果たすだけでなく、歩いて楽しいアクセスを可能とした。また、そこから見える水辺のテラスに人が集う風景は横浜らしさの演出につながっている。

桜木町駅からのアクセスの確保やテラスの設置といったプランから始まり、その場所性を生かす「水辺をひらく」というコンセプト、それを体現するやわらかな曲線とシンプルな構成など、事業の各段階が評価された。(真田委員)



- 事業者: 横浜市
- 【水辺テラス】
- 設計・施工者: 株式会社竹中工務店、西松建設株式会社
- 設計者: 株式会社横総合計画事務所
- ランドスケープ設計: オンサイト計画設計事務所
- フラワーランドスケープ設計: 株式会社アールフュージョン
- 【さくらみらい橋】
- 設計統括: 八千代エンジニアリング株式会社
- 全体意匠: 株式会社イー・イー・ユー
- 施工者: エム・エムブリッジ株式会社

元町パークレット

概要

パークレットとは、車道や駐車帯の一部を転用し作り出した歩行者のための滞留空間のことで、アメリカのサンフランシスコ発祥の取組であると言われています。2020(令和2)年、横浜元町ショッピングストリートでは、商店街が主体となって整備・管理する国内初の事例として、ベンチと植栽が一体となったパークレットを商店街内の3箇所に設置しました。この整備により、歩行者が過ごしやすい快適な空間を創出し、人々の憩いと賑わいの形成を図っています。

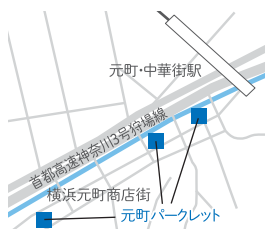
所在地

中区元町

講評

元町商店街は1950年代からセットバックを行い歩行者空間を生み出すなど、先進的な取組をしてきた商店街で、都市計画の教科書には必ず掲載されていると言っても過言ではない。そんな元町商店街が、パークレットという新しい仕組みをいち早く取り入れたことに驚かされた。まちづくりの古株は今でも進化し続けているのである。

整備されたパークレットは重厚な作りで、元町商店街の雰囲気にもふさわしく、また仮設的に見えないところは、歩行者に無料で休める場所を提供し続ける、今後も歩行者優先の街であり続けるとの意志の表れであろう。(真田委員)



- 事業者：協同組合元町エスエス会
- 設計者：株式会社スタジオ・ゲンクマガイ
- 施工者：株式会社ダニエル

UNIQLO PARK 横浜ベイサイド店

概要

UNIQLO PARK 横浜ベイサイド店は、公園的な広場と建物が一体となった国内初の店舗として、2020(令和2)年4月にオープンしました。1階の店舗入り口横から最上階の3階屋上まで各階をつなぐ屋上階段を上っていくことができ、またその横には斜面を利用した大型のすべり台やクライミング、ボルダリングなどの遊具が設置されています。その他にも6歳以上の子供向けのエリアや乳幼児用のプレイエリア、また大人たちがくつろげるスペースなど、幅広い世代に対応したエリアを整備し、地域に開かれた新たな施設となっています。

所在地

金沢区白帆

講評

今回受賞となった「UNIQLO PARK 横浜ベイサイド店」は、横浜のイメージに適した施設となっている。同一エリアには「大型アウトレットモール」、多数の豪華クルーザーの保留地「横浜ベイサイド・マリナー」、「高級外車の展示場」、そして美しい「海」によって、欧米の高級リゾート地のような雰囲気があり、この施設も「ユニクロの店舗が公園になっている」とのコンセプトの回答が、これであったのかと感心させられた。今後もメンテナンスを十分実施し、劣化させることのないよう期待している。(大西委員)



- 事業者：株式会社ユニクロ、株式会社ジーユー
- トータルプロデューサー：佐藤可士和
- 基本構想・デザイン監修：藤本壮介

YOKOHAMA BAYSIDE BLUE

概要

国産初の大型路線ハイブリッド連節バスとして、2020(令和2)年7月より運行を開始しました。「都心臨海部全体の回遊性を高め、市民だけでなく、観光客などの来街者にとっても、わかりやすく、使いやすく、快適に回遊できるバスシステム」を基本コンセプトに、横浜駅前(東口ターミナル)からパシフィコ横浜、横浜ハンマーヘッド、横浜赤レンガ倉庫、元町・中華街といったベイエリアの主要施設を結び、山下ふ頭まで運行する新たな交通手段となっています。

所在地

西区～中区

講評

きらめく横浜の空と海を封じ込めたような鮮やかなブルーの車体。2020年夏、国産初の大型路線ハイブリッド連節バスが横浜の街角にさっそうとデビューした。ベイサイドブルーの名の通り、横浜港の美しいベイエリアを二つの車体が連なって走る姿はインパクト十分で、それ自体が美しい。横浜の観光スポットを結びながら、まちなみに新たな賑わいと活気を与え、「絵になる横浜」を創り出している。シンボルマークの二つの連なる波は移動する二つの車体を表わし、停留所にも描かれる等トータルなデザインとなっている。4台しかないこのバスに出会えたらラッキー。横浜の幸せを運ぶ青いバスとして、観光スポット周遊バス「あかいくつ」と共に、市民にも観光客にも長く愛されて活躍してほしい。(鈴木委員)



- 事業者:横浜市
- 設計者:株式会社GK設計
- 施工者:株式会社アサイマーキングシステム

第1回 横浜・人・まち・デザイン賞 受賞作品

地域まちづくり部門

〈 〉内は活動団体名



環境エネルギー館の整備・運営
〈東京ガス株式会社〉



横浜駅西口振興活動
〈横浜駅西口振興協議会〉



都心部を中心とした歴史を生かしたまちづくり啓発活動
〈横浜シティガイド協会〉



仲町台駅周辺まちづくり活動
〈仲町台商業振興会、仲町台駅前センター街づくり協定運営委員会、地域作業所「ワークアシスト仲町台」〉



横浜駅西口駅前再開発事業
〈横浜駅西口駅前再開発協議会〉



元町仲通りまちづくり活動
〈元町仲通り会〉

まちなみ景観部門

〈 〉内は所在地



横浜ワールドポーターズ、ナビオス横浜と運河パーク
〈中区新港町〉



山手 111 番館とローズガーデン
〈中区山手町〉



洗手亭
〈中区山下町〉



大原隧道
〈南区清水ヶ丘〉



横浜ベイサイドマリナー
〈金沢区白帆〉



富岡川せせらぎ緑道
〈金沢区富岡西〉

第2回 横浜・人・まち・デザイン賞 受賞作品

地域まちづくり部門

< >内は活動団体名



鶴見西ロオープンカフェの運営
〈鶴見西ロオープンカフェ協議会〉



横浜弘明寺商店街のまちづくり活動
〈横浜弘明寺商店街協同組合〉



新横浜町内会のまちづくり活動
〈新横浜町内会〉



モザイクモール港北の建設と運営
〈第一共同開発株式会社、株式会社モザイク開発〉



都筑民家園を巡る活動
〈都筑民家園愛護会〉

まちなみ景観部門

< >内は所在地



カトリック横浜司教館
〈中区山手町〉



横浜情報文化センターと横浜地方・簡易裁判所
〈中区日本大通〉



グランノア港北の丘
〈都筑区大丸町〉



辺瀨橋下流の水辺拠点
〈栄区上郷町〉



中丸家長屋門とその周辺
〈泉区新橋町〉

第3回 横浜・人・まち・デザイン賞 受賞作品

地域まちづくり部門

< >内は活動団体名



自然を生かした公園でのプレイパーク運営
〈片倉うさぎ山公園あそび場管理運営委員会〉



東神奈川駅東口地区市街地再開発事業の実現
〈東神奈川駅東口地区市街地再開発組合〉



商店街の空き店舗活用による地域コミュニティ活動
〈西谷商栄会 井戸ばた倶楽部@nishiya〉



旭ジャズまつりの企画・運営
〈旭ジャズまつり実行委員会〉



横浜自然観察の森の案内・調査・環境管理活動
〈横浜自然観察の森友の会〉



都市防災の研究・提言・知識の普及活動
〈特定非営利活動法人 都市防災研究会〉

まちなみ景観部門

< >内は所在地



日産自動車横浜工場ゲストホール・エンジン博物館
〈神奈川区宝町〉



横浜港大さん橋国際客船ターミナル
〈中区海岸通〉



日本郵船歴史博物館
〈中区海岸通〉



馬車道のガス灯
〈中区港町～本町(馬車道商店街)〉



フェリス学院中学校・高等学校1号館
〈中区山手町〉



マーマシのはら保育園
〈港北区篠原町〉



天王森泉公園
〈泉区和泉町〉

※過去受賞作品の名称等は受賞当時のものです。

第4回 横浜・人・まち・デザイン賞 受賞作品

地域まちづくり部門

< >内は活動団体名



まちづくりのルールを作成
<大口通地区まちづくり委員会>



災害に強いまちづくり
<西戸部二丁目第一自治会 わくわく倶楽部>



障害者が生活しやすい環境づくり
<横浜ジェントルタウン倶楽部>



みんなに愛されるストリート
<日本大通り活性化委員会>



まちづくりの交流・情報発信拠点
<株式会社イータウン、横浜港南商店会、まちづくりフォーラム港南>



いきいき、楽しく環境活動
<関東学院大学 環境サークルHEP (Human Environmental Project)>

まちなみ景観部門

< >内は所在地



旧バーナード邸
<中区本牧元町>



二代目横浜駅遺構(ロワール横浜レムナツ)
<西区高島>



ZAIM(ザイム)
<中区日本大通>



横浜媽祖廟
<中区山下町>



荒井沢市民の森
<栄区公田町>



日本大通りとオープンカフェ
<中区日本大通>

第5回 横浜・人・まち・デザイン賞 受賞作品

地域まちづくり部門

< >内は活動団体名



鶴居原市民の森を憩いの森にする活動
<鶴居原市民の森愛護会>



野毛大道芸でまちおこし
<野毛大道芸実行委員会>



助け合いの精神で港南エリアを中心とした
住民生活をサポート
<さわやか港南>



つづきのみんなで元気なまちづくり
<特定非営利活動法人I Love つづき>



山下公園のコンビニエンスストアで子育て支援活動
<ハッピーローソン山下公園店>



鶴見川流域での清掃・学習・人材育成活動
<特定非営利活動法人鶴見川流域ネットワーク>

まちなみ景観部門

< >内は所在地



ストロングビル
<中区山下町>



日ノ出スタジオ・黄金スタジオ
<日ノ出スタジオ:中区日ノ出 黄金スタジオ:中区黄金町>



鶴見川河口干潟「貝殻浜」
<鶴見区生麦>



アメリカ山公園
<中区山手町>



はまみらいウォーク
<西区高島>



元町ペットバー
<中区元町>

第6回 横浜・人・まち・デザイン賞 受賞作品

地域まちづくり部門

〈 〉内は活動団体名



新治市民の森一帯の里山景観と生物多様性を守り育てる活動
〈新治谷戸を守る会/新治市民の森愛護会〉



寺尾地区で身近なまちの暮らしを豊かにする活動
〈寺尾地区福祉のまちづくり推進協議会〉



高齢化が進む西柴を生き生きと暮らせる街にしたい
〈特定非営利活動法人 さくら茶屋にしば〉



下和泉地区での交通不便を解消
コミュニティバスの自主運営活動
〈下和泉地区交通対策委員会〉



初黄・日ノ出町地区のアートによる安全・安心のまちづくり
〈特定非営利活動法人 黄金町エリアマネジメントセンター〉



港南区の歴史を後世へ伝承する活動
〈特定非営利活動法人 港南歴史協議会〉



六角橋商店街の新たな企画
空き店舗を活用したドッキリヤミ市場
〈六角橋商店街連合会〉

まちなみ景観部門

〈 〉内は所在地



ヨコハマアパートメント
〈西区西戸部町〉



日産グローバル本社 NISSAN ウォーク・横浜三井ビルディング公開空地
〈西区みなとみらい/西区高島〉



BankART Studio NYK・創造空間 万国橋 SOKO
〈中区海岸通〉



山手ライナー
〈11系統(保土ヶ谷駅～桜木町駅)
60系統(磯子駅～南区役所)〉



防火帯建築を活用した吉田町のまちなみ
〈中区吉田町〉



ザ・テラス/パークサイドカフェ
〈都筑区仲町台〉



ラバンクドロー
〈中区山下町〉

第7回 横浜・人・まち・デザイン賞 受賞作品

地域まちづくり部門

〈 〉内は活動団体名



京浜臨海部等での「トンボはドコまで飛ぶかプロジェクト」
〈トンボはドコまで飛ぶかフォーラム〉



金沢区でつくられる風景 ふるさと大道村
〈ふるさと大道の風景をつくる会〉



深谷台地域でのエリアマネジメント
地域課題の解決を实践
〈深谷台地域運営協議会〉



旭中央地区のコミュニティバス「四季めぐり号」の運行
〈コミュニティバス「四季めぐり号」運行委員会〉



環境意識を高め、歴史も知る大豆戸菊名打ち水大作戦
〈大豆戸菊名打ち水大作戦実行委員会〉



泉区いちょう団地での生活相談や学習支援
多文化共生の实践
〈多文化まちづくり工房〉

まちなみ景観部門

〈 〉内は所在地



霞橋
〈中区新山下〉



神奈川大学横浜キャンパス3号館
〈神奈川区六角橋〉



旧伊藤博文金沢別邸
〈金沢区野島町〉



東横フラワー緑道
〈東急東横線 東白楽駅から横浜駅周辺〉



横浜地方気象台とプラフ99ガーデン
〈中区山手町〉



横浜ベイオータワ
〈神奈川区金港町〉



横浜公園
〈中区横浜公園〉

第8回 横浜・人・まち・デザイン賞 受賞作品

地域まちづくり部門

< >内は活動団体名



農作業を通じた住民の見守りと交流
六ツ川野外サロンプロジェクト
(六ツ川野外サロン)



保土ヶ谷の人・まち・文化を活かした
街道のにぎわいづくり
(ほどがや 人・まち・文化振興会)



六浦東地区の人材マップを生かした
地域ぐるみのまちづくり
(六浦東・地域子育て会)



港北区を拠点とした
みんなで子育てをする環境づくり
(特定非営利活動法人びーのびーの)



中川駅前商業地区の安全で魅力的なまちづくり
(特定非営利活動法人ぐるっと緑道)



「まち工場による地域子育て支援」
～東山田準工業地域の取り組み～
(一般社団法人 横浜もの・まち・ひとづくり)

まちなみ景観部門

< >内は所在地



restaurant pétale de Sakura
(レストラン ペタルドゥ サクラ)
(泉区弥生台)



みなまき みんなのひろば
(旭区柏町)



minaGARDEN 十日市場 写真提供:小川重雄
(緑区十日市場町)



「夢の舞う岡」と命名されたまちの玄関
(戸塚区舞岡町)



神奈川大学横浜キャンパス29号館
(国際センター)
(神奈川区六角橋)



新横浜公園から見た大熊川トラス橋
(港北区新羽町(大熊川トラス橋) /
小机町(新横浜公園))



旧開通合名会社の煉瓦壁
(中区北仲通)



横浜海岸教会
(中区日本大通)

第9回 横浜・人・まち・デザイン賞 受賞作品

地域まちづくり部門

< >内は活動団体名



鶴見区の国道1号線沿いにおける住民と
事業者が「協働し実現した緑のまちづくり」
(鶴見「みどりのルート1」をつくる会)



市場西中町の歴史と地域のつながりを
生かした防災まちづくり
(鶴見区市場西中町まちづくり協議会)



美晴台の道に愛称をつけ、まちを分かりやすく、
明るく、楽しく、魅力的にする
(美晴台の道に愛称をつける会)



地域の魅力を生かした災害に強いまちづくり
～寺前東町・寺前西町・金沢町地域の取組～
(寺前東町・寺前西町・金沢町まちづくり協議会)



奈良町地域における交流拠点づくり
～どんな時もつながり合える街の家族～
(街の家族運営委員会)



魅力あるまちを次世代に引き継ぐ
緑いっぱいのもちづくり
(湘南桂台みどりの会)

まちなみ景観部門

< >内は所在地



Tinys Yokohama Hinodecho
(タイニーズ横浜日ノ出町)
(中区日ノ出町)



CASACO 撮影 大高隆
(西区東ヶ丘)



左近山みんなのいわ 撮影 マルモ出版
(旭区左近山)



横浜北線及び岸谷生麦線高架下緑地～首都高高架下
からキリンビール横浜工場へと続く緑豊かな散策路～
(鶴見区生麦)



THE BAYS & 中区役所別館
(中区日本大通)



スマートイルミネーション横浜
(中区海岸通ほか都心臨海部)
【photo:AMANO STUDIO】



たまプラーザ駅とたまプラーザ テラス
(青葉区美しが丘)

※過去受賞作品の名称等は受賞当時のものです。



連絡先

地域まちづくり部門:横浜市都市整備局地域まちづくり課
まちなみ景観部門:横浜市都市整備局景観調整課

TEL:045-671-2696 FAX:045-663-8641
TEL:045-671-3470 FAX:045-550-4935
〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10

